

### 企業展示会



集中セミナーおよび訪問看護サミット2013に併設して行われた企業展示会は、42社の出展があり、最新の在宅ケア関連の用品・器具・書籍やサービスが紹介された。

訪問看護師用のユニフォームやコンピュータソフトから訪問看護等在宅ケアに欠かせないさまざまな介護

用品・医療機器・介護食・栄養補助食品・書籍などの展示があり、2日間延べ1200人以上が来場し、書籍を探す人や用品・器具等の説明を聞く来場者で各ブースでは賑わいをみせていた。

また、出展企業以外に「訪問看護認定看護師教育機関」の紹介ブースおよび宮城県名取市の被災地支援活動の一環として、仮設住宅入居者の方々の手作り物品の「バザー」のブースが設置され関心を集めていた。バザー物品を購入される参加者の方々も多く見られ盛況であった。

### 平成25年度 集中セミナー (イブニングセミナー) 看護職起業家のためのセミナー ~地域包括ケアが求める訪問看護ビジネス~

約100名の受講者が17時から20時までの3時間、青木正人氏 (株式会社ウエルビー 代表取締役) から標題の講演を受け、その後数人のグループになって、地域での関係職種との連携について意見交換した。法人会員からスナック菓子やコーヒー等飲み物の差し入れを頂戴してのリラックスした研修会となった。講義では、訪問看護ビジネスはシンプルで、1人訪問看護師1か月当たり訪問件数が70回を割り込むと、ステーションが赤字になることを改めて強調された。



青木正人氏

また、地域包括ケアシステムにおいて訪問看護は、地域を隅々までアセスメントし、顧客のニーズに合わせて業態化することの必要性も示唆された。受講者からは、「今後の方向性をわかりやすく説明していただき良かった」との感想が多かった。当財団へは「起業されている方の交流をもっと持ってほしい」、「起業した方からのノウハウを聞きたい」という意見もいただいたので、今後の研修企画に反映させたい。

### 当財団設立20周年記念 「訪問看護サミット2014」の開催日は11月29日に決定!

ベルサール新宿グランドホール (訪問看護サミット2013を開催した会場と同じ場所) で、2014年11月29日 (土) 10:00から16:30まで、標記サミットを開催し、18時から20時までは同会場にて記念パーティーを企画しています。

標記サミットでは、ご来賓者からのご祝辞のほか、長年にわたり訪問看護や当財団の事業推進にご尽力くださった方々に対して、感謝を込めた表彰式を開催させていただきます。さらに、当財団20年の歩みに関連して、日本の訪問看護等在宅ケアの歴史を振り返ります。

午後は、記念講演と記念シンポジウムです。夕方17時から1時間のミニライブを予定しています。心癒され、元気の出るひとときをご一緒にお過ごしいただきたいと思ひます。

18時から20時までには記念パーティーで、食事をしながら懇親を深め、アトラクションもお楽しみいただく予定です。

なお、翌日の11月30日 (日) は10時~16時まで集中セミナーを開催します。

皆さまとともに20年を振り返り、「これから」を語り合ひましょう。当日のご来場をお待ち申し上げます。

対応、地域資源との連携など、要件には職員数、看取り数、教育体制などを想定していると、構想を明かした。氏は、小規模ステーションと機能強化型の役割を区別し、機能分化していく方向性を提示し、地域包括ケアシステムの中で、「機能強化型と地域のステーションがネットワークを築き、安定的に訪問看護を行う体制を構築していかなければならない」と主張した。



「宮崎氏は、「認知症といったら、任せてください訪問看護師に」と胸をはって言えるような状況にしなければいけないけれど、今はそうならない」と問題意識から語り始め、自身の2つの体験を紹介した。1つ目は、とある町が企画した認知症の勉強会に講師として呼ばれた際に、200人以上集まった町民の中に看護師が一人も参加していなかった体験から、看護師の認知症に対する認識不足を実感。その上、もはや使わなくなった「問題行動」という

のびと生きていけるように支援したいけれど、それをいつも邪魔するのは看護師さんです。どうしたらよいでしょうか」という相談を受けた体験。少しでも危険だと判断すると、NGを出す看護師がリスク管理を最優先している状況を嘆いた。そこで氏は、認知症の人の支援の体験を踏まえ、熱弁をふるった。「認知症であっても元気に生き生きとわがままに死ぬまで生きられるはずだ!」しかし、それができないのは、周りが悪いからで、周りが変わらないとい

う。するとみるみるうちに認知症の人たちが元気になり、変わっていったという。まさにのびのびと生きられるようになったのである。こうした支援のためには、「リスクマネジメントを中心にするのではなく、ちょっと危ないことも意識しながら普通に生きることを支えられるプロにならなければならぬ」と訴え、そのためには治療優先ではなく、生活を豊かにしていく支援が必要で、「そこに看護師の力が求められている」と強調した。氏は最後に「認知症の人が豊

4人の講演者によるリレートークの後、会場からの質疑に答える形で意見交換が行われた。時間いっぱい、さまざまな質問の声があがり活発な議論が交わされた。とりわけ、機能強化型への関心が高く、役割についてや要件報酬について、さらに小規模との格差が生まれないかといった疑問まで、質問が集中した。構想段階ということもあり、具体的なことはこれから決まってくる中で、地域の基幹的な役割を果たすステーションの誕生に向



佐藤美穂子・当財団常務理事

2025年に向けて待ったなしです。今から地域包括ケアシステムの構築に向けて、私たちは積極的に関わっていく必要があります。また、来年、日本訪問看護財団は設立20周年を迎えます。東京で20周年大会を企画しております。みなさまのお越しをお待ちしております」と結び、訪問看護サミットは閉会した。